

第23回 現代世界の系統地理的考察

■■ 人口、村落・都市編 ■■

世界の都市・居住問題に目を向けてみよう

監修・講師

三上岳彦

学習のねらい

多くの人や物が集まる都市では、さまざまな“都市固有の”問題がある。発展途上国では、都市への人口集中が急激に進み、大都市にスラムが形成されることもあり、居住問題が深刻である。一方、先進国では、物やエネルギーの消費量が大きく、大気汚染など都市環境が悪化しつつある。都市の環境問題のひとつが、都市化によって気温が下がらなくなるヒートアイランド現象である。ヒートアイランドが起きる原因とその緩和策について考えてみよう。

今回のポイント

- 発展途上国の都市・居住問題
- 先進国の都市・居住問題
- 都市のヒートアイランド

■■ 発展途上国の都市・居住問題 ■■

発展途上国では、都市に人口が集中し、道路にあふれる自動車による渋滞・交通事故・排気ガス、工場の排煙・廃液による環境汚染、家屋の密集による災害時の被害増大の危険性などが問題となっている。農業の機械化などもあって失業した人々が働き口を求めて都市へ移動するが、十分な仕事がないためスラムを形成し、安い賃金で働き生活している。スラムでは、無秩序な増改築やインフラの未整備などで、水質汚染や感染症の発生などの危険性が高まっている。

フィリピンのケソン市のスラムでは、狭い面積にたくさんの人々が住んでいるが、政府はスラムの家を取り壊し、新たにオフィスビルやホテルの建設計画を立てたが、スラムの住民は遠く離れた場所に移住先を用意されたものの、そこには仕事がなく、より厳しい暮らしを強いられることになる。

■■ 先進国の都市・居住問題 ■■

先進国の都市では、物が大量に消費されるが、その陰で不法投棄や産業廃棄物の大量廃棄が行われている。エネルギー消費量も大きく、大気汚染など都市環境の悪化・環境負荷の増大が問題となっている。フランスのパリでは、2007年から市営のレンタサイクルが導入されたが、パリ市内および周辺に1,700か所以上のステーションがあり、市民も観光客も利用できる。

先進国の大都市では、都心地域の空洞化や極度の機能集中といった問題を解決するため、再開発が行われている。世界で最も早く近代化した都市、イギリスのロンドンでは、テムズ川の港湾施設の閉鎖に伴う再開発を行ったが、都市の再開発においては、環境面に対する配慮が重要になってきている。

■ ■ 都市のヒートアイランド ■ ■

都心には、高層ビルが立ち並び、道路はアスファルトで舗装されている。コンクリートのビル壁面やアスファルトの路面は、昼間、日ざしによるの熱を吸収してため込む。都市に吹く風は、高層ビルにさえぎられて地表近くには流れにくくなるため、熱い空気が居座り続ける。夜になると、ビルやアスファルトがため込んだ熱を放出する。その結果、上からふたをされて、熱せられた空気がその中をぐるぐる回っているような状態になっている。

2010年以降、熱帯夜（夜間の気温が25度以上の日）と猛暑日（昼間の気温が35度以上の日）の日数が増加傾向にある。熱中症の患者数は、熱帯夜日数の多い年には増える傾向にある。近年は、高齢者が就寝中に脱水症状を起こして亡くなる例が数多く報告されている。水分・塩分の補給と適切な冷房の使用が大事である。

また、都市部では夏の午後に突然降り出す局地的な豪雨（いわゆるゲリラ豪雨）が増える傾向にあるが、気温が高くなると熱せられた地表面の空気が上昇しやすくなり、そこにさまざまな要因が絡んで局地的な豪雨が発生すると考えられている。詳細なメカニズムは、まだ解明されていない。